

研究課題名	薬剤師による観血的手技予定慢性肝疾患患者の血小板数と出血リスク確認に基づくルストロンボパグ推奨が血小板輸血の回避と観血的手技の安全に及ぼす影響
研究責任者名	広島大学病院薬剤部 教授 松尾 裕彰
研究期間	許可日 ~ 2025年3月31日
対象者	2016年7月から2023年6月の間に、広島大学病院で観血的手技を実施された成人の慢性肝疾患患者さん。ただし開腹、開胸、開心、開頭又は臓器切除を伴う観血的手技の場合は除きます。
意義・目的	<p>肝硬変患者は血小板数が低下する事が知られており、肝癌治療など観血的手技を受ける機会に出血が問題になります。血小板を増加させる処置として血小板輸血がありますが、アナフィラキシーなど重篤な合併症が問題となっており、2020年には血液製剤の供給不足から適正使用に関する緊急提言が出ています。また、肝硬変診療ガイドライン 2020 で、観血的手技を予定している慢性肝疾患患者の血小板減少症に対してルストロンボパグ使用が推奨されました。</p> <p>そこで、観血的手技を予定している慢性肝疾患患者の血小板数と観血的手技の出血リスクを薬剤師が確認し、該当患者を抽出することで、血小板輸血を回避し、ルストロンボパグによる安全な観血的手技が可能となるか、本研究で明らかにすることを目的としています。</p>
方法	<p>本研究は、診療録（カルテ）情報を調査して行います。</p> <p>カルテから使用する内容は患者の年齢、性別、既往歴、慢性肝疾患の種類、治療内容、他の治療中の疾患、血小板数、脳症の有無、腹水の有無、血清ビリルビン値、血清アルブミン値、プロトロンビン活性値、常備薬、市販薬、サプリメント、観血的手技時の出血量、ルストロンボパグ投与による有害事象および投与後の血栓イベントの有無です。（個人を特定可能な情報は解析に用いません）</p> <p>利用開始予定日：実施許可日（2022年12月12日）以降</p>
共同研究機関	広島大学病院のみで実施するため、他機関へ情報の提供は行いません
試料・情報の管理責任者	広島大学病院薬剤部 教授 松尾 裕彰
個人情報の保護について	<p>調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりするなどのご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。</p> <p>不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせください。</p> <p>* 研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。ただし、すでにこの研究の結果が論文などで公表されている場合には、提供していただいた情報や試料に基づくデータを結果から取り除くことが出来ない場合があります。なお公表される結果には、特定の個人が識別できる情報は含まれません。</p> <p>また、本研究に関するご質問等あれば下記連絡先までお問い合わせください。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報等の保護や研究の独創性確保に支障がない範囲内で、研究計画書および関</p>

連書類を閲覧することができますので、お申し出ください。

問合せ・苦情等の窓口

〒734-8551 広島市南区霞 1-2-3

T e l : 082-257-5579

広島大学病院薬剤部 教授 松尾 裕彰（研究責任者）

薬剤師 佐藤 佑樹（担当者）